

新年おめでとうございます。旧年中は皆さまに大変お世話になり、心から御礼申し上げます。繰り上げ当選で国政に復帰し、私にとっては忘れられない年となりました。ひとえに皆さまの絶え間ないご支援の賜物です。

昨年の国政をかえりみると、年金カット法、TPP、中国、北朝鮮、ロシアとの外交・安全保障問題、カジノ法など騒がしい年でした。国会における我々の対応も根本的な見直しが必要ですが、一方で、政権与党の傲慢な国会運営は、必ず我が国の政治に禍根を残すでしょう。

景気回復の実感がない。過疎化が進む。年金がどんどん減らされる。将来への不安が募る。こうした中で、「国会で不毛な論争を繰り返すよりは、さっさとなんでも通せばいいじゃないか」とお考えになる方もいるかもしれません。

しかし、国が追い詰められているときほど、政府は取り返しのつかない、極端な政策を実行しがちです。国民の方も「今は危機の時代だから、多少乱暴な政治でもやむを得ない」とこれを受け入れます。

だからこそ、重要な論点を冷静に議論して、法案の修正などが必要であれば、修正した方が国民にとって利益のあることです。

「そんな余裕がない」といっても、政権与党が求める日数よりも、たかだか2、3週間ほど審議が延びる程度の話です。昨年の年金カット法も、TPPも、カジノ法も、野党が要求してきた審議時間は、極めて常識的でした。過去の同じような法案の審議時間を要求しただけの話です。

もちろん、だらだらと、不毛な反対をつづける野党の存在はいりません。国会内でプラカードを掲げていたり、物理的な妨害などに走っても、誰にも相手されません。自分たちが実現したい政策を訴えずに、こうしたパフォーマンスを続ける限り、我が党は窮地を脱することはありえないでしょう。

私としては、この一年間、この活動報告などで、私が京都や国にとって必要だと思う政策を訴えつつ、「たゆまず、屈せず、再挑戦」に向け奮闘してまいります。